

平成30年度 金沢市立城南中学校 学校評価報告書

分野	重点目標	評価項目(具体的な取組)	指標	実現状況の達成度基準	評価	取組状況(・) 成果(O) 課題及び改善策(▲) 結果(■)
金沢型学校教育モデル(必須)	金沢型学習プログラム、金沢型学習スタイル、金沢型小中一貫教育による金沢型学校教育モデルに基づく教育活動を実践する	①金沢ベーシックカリキュラムを基準として、知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成・実施している 評価・達成状況 B	⑦各教科の教育課程の実施状況を教科部会・週案等で確認し計画通りに実施している(成果)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 60%以上 80%未満 D: 60%未満	A	・週案に年間予定を添付し、教育課程の進捗状況を確認しながら授業を実施した。 ○教科部会で教育課程の進捗状況を確認しながら授業を実施した。 ▲授業時数のばらつきにより学級間格差が生じているので、学期の累積時数だけでなく月毎に時数を確認し学級間差がないようにする必要がある。 ▲学校管理運営計画に基づき、道徳・人権・健康教育を実施する。 ■ ⑦94% ⑧83%
			④道徳教育、人権教育、健康教育について、年間指導計画に基づいて実施している(努力)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 70%以上 80%未満 D: 70%未満	B	
	②金沢ふるさと学習において、金沢の多様な素材や人材を活用し、金沢について学び、考え、かわり、広める学習を実践している 評価・達成状況 A	⑦金沢がもつ人材・施設が十分に生かされている(努力)	外部講師の招聘回数(各種教育活動データ) A: 5回以上 B: 4回以上 C: 2回以上 D: 1回以上	B	・総合の時間の年間計画に基づいて、外部講師を招聘して学ぶ機会を設定した。 ○1年生はこの地域にお住まいの講師の先生から加賀万歳を学び、2年生は金沢自主プランで体験学習を実施することにより、金沢の良さについて深く考えることができた。 ▲1年生は2学期に金沢の姉妹都市を学習する。この学習でも、さらに金沢ふるさと学習を推進していきたい。 ⑦4回(創立記念 加賀万歳 ピュアキッズ JICA) ⑧94%	
		④生徒に金沢のまちに愛着と誇りを持ち、まちづくりの担い手としての意識が育っている(成果)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 60%以上 80%未満 D: 60%未満	A		
	③「金沢子どもかがやき宣言」に基づき、人と人の絆を大切にし、児童(生徒)の心と力を磨く児童会(生徒会)活動を実践している 評価・達成状況 B	⑦生徒が金沢「絆」プロジェクトを通して、人と人の絆の大切さを感じている(成果)	肯定的な評価の割合(生徒アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 60%以上 80%未満 D: 60%未満	A	・児童生徒挨拶の日などボランティアの日など校区の児童生徒合同の取組を実施した。(今年度のボランティアは急遽中止) ○児童生徒挨拶の日は実施することができた。金沢「絆」の日は準備をしていたが酷暑のため急遽中止となった。 ▲校内の奉仕活動であるアルミ缶回収運動や花植え作業についてはさらにより活動になるよう、日程や取組の方法について再考が必要である。 ■⑦95%(生徒アンケートより「自発的な挨拶」) ⑧82%	
		④生徒が金沢「絆」プロジェクトを大切にし、【生徒会活動】を充実・推進させるように指導している(努力)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 70%以上 80%未満 D: 70%未満	B		
	④金沢型学習スタイルに基づく主体的・対話的な学習を通して、児童(生徒)が考えを広げたり深めたりしている 評価・達成状況 A	⑦話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう工夫している(努力)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 70%以上 80%未満 D: 70%未満	B	・授業の中で「考える」「つたえる」のプレートを活用し、生徒が自分で考えたり、お互いの考えを深めたりする場を設定した。 ○プレートの活用を意識して授業することで、金沢型学習スタイルに基づいた授業の流れを工夫することができた。 ▲課題をどのように考えさせ、伝え合うのか、その課題の設定と授業形態の研究を継続していく。 ■⑦89% ⑧87%	
		④話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると思う(成果)	肯定的な評価の割合(生徒アンケート) A: 60%以上 B: 50%以上 60%未満 C: 40%以上 50%未満 D: 40%未満	A		
	⑤指導方法の工夫・改善について、小中学校間で研究を推進している 評価・達成状況 B	⑦城南中学校区における学力の課題解決に向けた共通実践を意識した授業づくりに努めている(努力)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 70%以上 80%未満 D: 70%未満	D	・小中学校がそれぞれ授業公開を行う予定である。現時点では中学校の授業公開を一度開催している。 ○中学校の授業は公開できている。 ▲今年度の授業公開日が本校の研究授業の日程と重なったため、小中の教員と合同での授業整理会が実施できなかった。次回の公開授業では小中合同の整理会を実施する予定である。 ■⑦63% ⑧1回	
			④授業参観及び授業研究会を行い、指導方法の工夫・改善を図っている(成果)	小中学校間における授業参観・授業研究会の回数(各種教育活動データ) A: 3回以上 B: 2回 C: 1回 D: 0回		C
学校関係者評価委員会からの改善策に向けた意見等						自己評価結果及び学校関係者評価結果を受けての改善策

(別紙様式1-4)

学 習 指 導	【学力の向上】 授業でのあるべき姿、家庭学習の習慣の定着を図り、わかる授業、考えさせる場面のある授業をめざして指導を工夫する 評価・達成状況 B	①「授業の約束」や「めざす学びの姿」が浸透した学習集団づくり、個々の家庭学習の習慣づけを図る 評価・達成状況 A	⑦学習意欲を持ち、積極的な学習態度で授業に取り組んでいる(満足)	肯定的な評価の割合(生徒・教員アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満	A B C B	・1学期の学習目標を「授業のルールを守ろう ①ベル学②忘れ物なし③授業の準備」として、各学年や学級で望ましい学習集団づくりに取り組んだ。 ○リーダー会を中心に生徒の取組として授業規律を向上させる活動を行い、テスト前には学級対抗で学習時間コンテストを行うなど、生徒による活動がよい意識付けになっている。 ▲家庭での学習時間が伸び悩んでいる。自学自習用のノートを活用し、家庭学習の時間を増やしていきたい。 ■⑦生徒95%教員100%(6割以上の生徒が意欲的と答えた割合) ①81% ・教員同士の授業参観や授業研究を行い、わかりやすい授業づくりに努めた。 ○本校「授業改善11のポイントチェックシート」で毎月検証し、授業改善に努めた。 ▲教師の授業記録簿(週案)に授業の課題を明記しておき、実際の授業ではプレートを活用して課題を提示していく。 ▲グループやペア学習などを活用し、深い学びのある授業をさらに実践していく。 ■⑦78% ①89%
		②課題や発問、授業の進め方を工夫し、「わかりやすい授業」「考えさせる場面のある授業」をめざしている 評価・達成状況 B	⑦授業で『課題』『考える』『伝える』『まとめる』のプレートを効果的に活用している(成果)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満		
			④生徒が十分考える場面とそれを活用した授業の展開を行っている(満足)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満		
		学校関係者評価委員会からの改善策に向けた意見等		自己評価結果及び学校関係者評価結果を受けての改善策		
生 徒 指 導	【豊かな心の育成】 生徒の「人間力」育成をめざし、組織を活かした生徒指導の推進を図る 評価・達成状況 B	①豊かな人間関係づくりに向けた生徒の育成を図る 評価・達成状況 A	⑦生徒が安心して有意義な学校生活を送っている(満足)	安心で安全な学校を意識している(教員アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満	A A B A C	・安心できる学校生活を保障し、明るく楽しい学校づくりを心がけて取り組んだ。 ・日中も教師や先輩に対して「こんにちは」と自然に挨拶ができる習慣づけを実践した。 ○学校内では明るい自発的な挨拶が習慣化した。また、学校外でも挨拶について地域の方々からお褒めの言葉をいただいた。 ▲学校行事では、生徒が主体となって行う活動を計画し、実施していく。 ■⑦100% ①教員100%(6割以上の生徒ができていると回答した割合) 保護者94% ⑦87% ・各学期に生活アンケートや生徒個人懇談を行い、きめ細かな相談体制を整え、問題の早期発見、早期改善に努めた。また、いじめ問題対策委員会をすぐに行い、組織的に対応した。 ○生活アンケートを毎月実施し、問題があればすぐに面談を行うなどきめ細かな生徒理解ができている。 ▲アンケートだけでは把握できない問題を速やかに見つけ、解決に導くことが課題である。 ■⑦教員95% 保護者96% ①不登校生徒割合 3.4%(294名中10名)
			④明るい自発的なあいさつが生活習慣となっている(満足)	肯定的な評価の割合(教員・保護者アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満		
			⑤学校行事等に積極的に取り組んでいる(成果)	学校行事等に進んで参加する生徒の割合(生徒アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満		
		②全体で生徒の状況についての理解を共有し、組織的に生徒指導に取り組む 評価・達成状況 B	⑦懇談等を活用して、きめ細やかな生徒理解に努める(努力)	肯定的な評価の割合(教員・保護者アンケート) A：90%以上 B：80%以上 90%未満 C：60%以上 80%未満 D：60%未満		
	④いじめや暴力がなく、生徒が安心して有意義な学校生活を送っている(成果)	不登校生徒(相談室登校含む)の割合 A：2%未満 B：2%以上3%未満 C：3%以上5%未満 D：5%以上				
学校関係者評価委員会からの改善策に向けた意見等		自己評価結果及び学校関係者評価結果を受けての改善策				

平成30年度 金沢市立城南中学校 学校評価計画書

分野	重点目標	評価項目(具体的な取組)	指標	実現状況の達成度基準	評価	取組状況(・) 成果(O) 課題及び改善策(▲) 結果(■)	
教員の業務適正化(必須)	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校運営体制の構築など、教職員が本務に専念するための時間を確保するための取組を推進する	①時間外勤務時間の縮減に向けて、具体的な取組を推進している	⑦業務適正化に向けた市の基本方針や学校の具体的な取組を理解し、教職員自ら業務の自己管理ができている(満足)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 60%以上 80%未満 D: 60%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> 業務適正化に向けた市の基本方針を全職員で確認し、退校目標時刻を20時30分に設定した。また、月に一度の定時退校日も設定し、勤務時間内に勤務を終える日を設けた。 部活動では平日のうち週1回は休養日とし、週末土日の2日間のうちどちらかを休養日とするように取り組んだ。また、夏季休業期間中の活動は、土日の両日を休養日とし、特別な理由がない限り部活動を行わないと確認した。 <p>○昨年度と比較して勤務時間が減少している。</p> <p>▲部活動では昨年度から決定していた日程もあり、閉庁日を含まず3日間の休養日を確保することが難しかった。閉庁日を含まず3日間の休養日については来年度の課題とし、来年度の年間行事など工夫したい。</p> <p>■⑦84% ①74% ②4月から8月までの平均時間外勤務時間は平成29年度が84時間、平成30年度は81時間。よって4%の減少。③50%。ただし、閉庁日のうち1日を加えた場合の3日以上休養日実施率は100%である。</p>	
			④定時退校日には、定時に退校できるよう業務改善に努めている(努力)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 70%以上 80%未満 D: 70%未満	C		
			⑤最終退校時刻の目標を設定し、時間外勤務時間の1か月あたりの平均が前年度より減少している(成果)	前年度より時間外勤務時間が減少した割合(各種データ) A: 10%以上 B: 6%以上 10%未満 C: 3%以上 6%未満 D: 3%未満	C		
			④夏季休業など長期休業中(閉庁日を除く)に、まとまった部活動休養期間(連続3日以上)を設けている(成果)	長期休業中に連続3日以上休養日を設けた部活動の割合(各種データ) A: 90%以上 B: 80%以上 90%未満 C: 60%以上 80%未満 D: 60%未満	D		
	評価・達成状況 B	評価・達成状況 C	②教職員の勤務時間の現状や多忙化改善に向けた取組について、保護者や地域の方々の理解と協力を求めている	⑦学校だよりやスクールフォーラムなどを活用して教職員の時間外勤務の現状や多忙化改善に向けた取組を周知している(成果)	周知する機会の実施状況(各種データ) A: 5回以上 B: 3回以上 C: 2回 D: 2回未満	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより等の配布物で周知するとともに、PTAの役員会や実行委員会、PTA総会を通して資料や口頭で周知している。また、保護者全体に対してはスクールフォーラムなどの行事を通して伝えている。 ○様々な方法で伝達した結果、保護者の理解は深まってきている。 ▲90%以上の保護者から肯定的な回答をもらえるように、今後はメール配信などの電子端末機器を活用した広報活動も行っていきたい。 ■⑦実施状況4回以上 ①84%
			評価・達成状況 B	④業務適正化に向けた学校の方針や具体的な取組に対して保護者の理解を得ている(満足)	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 80%以上 B: 60%以上 80%未満 C: 40%以上 60%未満 D: 40%未満	A	
学校関係者評価委員会からの改善策に向けた意見等						自己評価結果及び学校関係者評価結果を受けての改善策	